



日本薬学会 医薬化学部会 創薬人育成事業

東海地区 10 大学連携 創薬人育成スクール

アドバンストコース

主として大学院生対象。学部高学年生も可。参加費無料

日時：令和4年10月1日（土）13時00分～17時30分
場所：岐阜薬科大学 本部校舎第2講義室（ハイブリッド）
開催世話人：岐阜薬科大学 薬化学研究室 永澤 秀子

プログラム

13:00 開会の言葉 岐阜薬科大学 永澤 秀子

13:05～14:25 フッ素スキャン・窒素スキャンを利用した RAF/MEK 阻害剤 CH5126766 の創製
座長：滝田 良 中外製薬株式会社 創薬化学研究部 主任研究員 青木 紀裕 先生
静岡県大
医薬品は薬効・物性・安全性など多様な性質に対して一定の基準値を満たすことが必要となる。リード最適化では、一つの官能基変換が化合物の性質を大きく変化させ、この基準を全て満たすことが困難となるケースがある。このようなケースに対し、他の性質への影響を最小限にする化学変換としてフッ素原子への変換、骨格内への窒素原子の導入を用いて RAF/MEK 阻害剤 CH5126766 を見出した。本講義では各原子の影響と、至適な導入位置を見出した創薬手法を紹介する。

14:25～15:45 企業での創薬研究とは ～化合物を探索する立場から～
座長：中川 秀彦 小野薬品工業株式会社 研究本部 創薬ケミストリー研究部
名古屋市大 プロジェクトリーダー 石田 昭治 先生
ひとつの薬ができるまでに評価対象となる化合物の数は 30,000 を超えると言われています。本講演では、成功確率 0.003% 以下の世界で奮闘する創薬研究者の心の内を軸にお話しします。前半部分は、プロジェクトを進めるうえで自分と異なる領域を専門とする研究者と相互理解することの重要性について触れます。後半では、薬に求められる条件をクリアするために、どのように化合物構造を変えていったのかという経緯を具体的に紹介いたします。

16:00～17:20 創薬研究のデジタルトランスフォーメーション ～AI とロボットを活用した創薬～
座長：横島 聡 アステラス製薬株式会社 開発研究ディスカバリーインテリジェンス
名古屋大 プラットフォームサイエンス&モダリティ研究室 主管研究員 瀬尾 竜志 先生
新薬創出の難易度がますます上昇している現在において、創薬モダリティの効率的な探索研究には、創薬手法のデジタルトランスフォーメーション (DX) が求められている。本講義では弊社の低分子創薬研究における取り組みを例に、AI やロボット技術など飛躍的に進歩するデジタルテクノロジーを活用した創薬手法の DX についてお伝えするとともに、研究者はどのように AI やロボットと共存共生していくべきかについても触れる。

17:20 閉会の言葉 名城大 森 裕二

※ ミキサーや懇親会は行わない予定です。

日本薬学会 医薬化学部会 創薬人育成事業 東海地区世話人

永澤秀子（地域世話人代表、岐阜薬科大学）、滝田 良（静岡県立大）、中川秀彦（名古屋市立大学）、森 裕二（名城大学）、安池修之（愛知学院大学）、林 一彦（金城学院大学）、岩島 誠（鈴鹿医療科学大学）、柴田哲男（名古屋工業大学）、横島 聡（名古屋大学）、池田 将（岐阜大学）